支所廃止への布石

市政報告会で住民の意向を

「関係住民と精力的に接することにより、地域の実状を知ろう」。と、十一月十八日、十九日、二十四日の三日間、それぞれ前浜、稲生、三和地区で市政報告会が開かれました。

市執行部は、九月定例市議会終了後に、県を通じて自治省へ『自主財政再建計画書』を提出していますが、その中の〝歳出に関する事項（2、機構(1)支所の廃止）〟で支所の廃止を打ち出しています。

この市政報告会では、財政再建のための支所廃止の問題と、当面する市政の概要説明が中心で、支所の問題については賛成、反対の活発な意見交換がありました。

これは、財政再建審議会（会長松本一郎市議会議員）の答申によるもので、これによると「地勢的には比較的恵まれた土地であり、交通手段の発達した現在は距離でなく時間である。また、各種手続のみで事務が完了しないものが多い。よって、支所は基本的に廃止すべきである」となっています。

また、「廃止に当っては住民サービスと必要度を考慮し、関係住民の合意を得ること」と、ただし書きでも規定しており、市は三和、十市、岡豊、領石の四支所のうちとりあえず老朽化が激しい三和支所の関係地区である前浜、稲生、三和の住民と、十一月十八日、十九日、二十四日と対話をしたものです。

三日間の市政報告会では、市側から小笠原市長、吉本、国沢両助役、田岡収入役らが出席して開かれました。まず、小笠原市長が財政、同和、空港の市政三本柱について所信を述べ、支所廃止の問題については、「機構と行政事務の合理化ということであり、市民のみなさまのご理解とご協力をお願いしたい」と挨拶。この後、吉本助役が、広域農道や医大新設などの当面する諸問題について、また唐岩企画財政課長が財政再建について、「県下にも例がない職員の定期昇給延伸や職員不補充、また税収や手数料のアップなど、年間一億円の赤字解消に努力しています。特に事務も複雑化しており、支所だけで処理できる事務はほとんどなく、廃止の方向で、みなさんの合意のもとに、財政再建にご協力をお願いしたい」という主旨の報告がありました。

これに対し、関係住民の賛成意見としては「交通機関も発達しており、本庁のある後免に行く機会が多い。住民に後免が市の中心地であるという意識を植えつけるべきである」「それに伴い、本庁へむけての便利な道路の整備も必要になってくる」「支所の廃止は機会がないとできるものではない。財政再建といういい機会があり、三和支所だけでなく四支所の全廃を考えるべきだ」などであり、また反対意見としては「今まで野良仕事の合間に気楽に行ってたものが、廃止になると本庁まで行くことになり便利が悪くなる」「人件費の節約と言うが地域への住民サービスが重要ではないか」などでした。また、市に対する要望としては、「三和支所は親切だ。本庁は市民サービスが良いとは言えない。待つ時間が長いので事務能率の向上を考えてもらいたい」「支所廃止の前に、本庁の駐車場確保を望みたい。市民の車を駐車する場所がないことは問題だ」など厳しい意見が出されました。

これらの意見を充分考慮し、市はこれからも検討していくことを約束し、支所廃止への布石とします。

本年度は〝線引き〟の見直しの年

―当面する諸問題―

市政報告会では、支所廃止の問題とともに、市政の当面する諸問題について吉本助役から説明がありました。その概要を抜すいしてみました。

■都市計画の見直し

昭和四十五年に高知広域都市計画の一環として、南国市、土佐山田町、高知市、春野町、伊野町の五市町が広域都計を組んで五年目になり、本年度は市街化区域と市街化調整区域との〝線引き〟の見直しの年度になります。

市街化調整区域にはずいぶん矛盾があり、市民のみなさんには迷惑をかけております。南国市は十五町村が合併してできており、そこで後免町の周辺三三〇㌶のみを市街化区域に決定しているので、家を建てるならこの三三〇㌶の中へ建てろということになるわけです。

ところが、南国の場合は南は海岸線から北は山の尾根までが市街化調整区域で、この広い面積が開発許可の制限をうけることになります。

■広域農道

浜改田から久礼田に抜ける南北約十一㌔㍍、幅員七・五㍍の広域農道は、四十九年度から実施しています。今年は北部を買収し、五七〇㍍程度実施します。もちろん、国分川、領石川に橋がかかり、ライスセンターや園芸物や農作物の集出荷場などを延線でつなぎます。

■四国横断高速自動車道

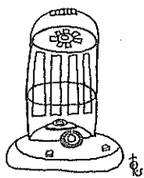
瀬戸内の川の江―領石―高知―須崎というラインで、最初に大豊―南国間二十三㌔㍍を実施予定しています。来年度公表し説明会の後、実施のはこびとなります。

■十市パークタウン計画

前知事当時から計画されていたが、十市分について買収が事実上できてないので計画変更をよぎなくされている。その土地利用等については住民の声を聞いて方向づけをする。

■高潮対策事業

下田川に堰を造り、芹ケ谷で高潮時に閉めきり、ポンプアップして下流に送る。稲生の小久保、西谷あたりには内水排除のポンプを設置する。



（上の写真）熱心に討議を重ねる住民――三和地区公民館で

自(2)公共社　衆院総選挙終る

第三十四回衆議院議員選挙は、十二月五日投票、即日開票の結果平石磨作太郎（公明）、谷川寛三（自民）、山原健二郎（共産）、大西正男（自民）、井上泉（社会）の各氏が田村良平（自民）、佃秀男（新自ク）の両氏をおさえて当選しました。また、県下の当日有権者数は六十万四百二十九人で投票者は四十七万九十五人、投票率は七八・二九％、南国市の当日有権者数は三万二千百八十五人で投票者は二万五千百人、投票率は七七・九九％でした。

県下	91,057	当 平石 磨作太郎（公・新）	62,890	佃 秀男（新ク・新）	25,968
	77,288	当 谷川 寛三（自・新）	68,058	次田 村 良平（自・現）	
	72,515	当 山原 健二郎（共・現）	69,477	当 井上 泉（社・現）	
			72,515	当 大西 正男（自・現）	
南国市	3,822	当	3,926		1,139
			2,363		6,388
			1,815		5,481